駅＋商業施設アワード

東急設計担当者に聞く ①

㈱東急設計コンサルタント
建築設計本部第２設計室 副室長
横山 伸祐 氏

㈱東急設計コンサルタントが設計を手がけた駅と商業施設を組み合わせた施設が、３つの賞（ブルネル賞（奨励賞）、グッドデザイン賞、鉄道建築協会賞佳作）に輝いた。いずれも駅の機能を強化し、商業施設などの人が集う機能を付加することで拠点性や回遊性を向上させ、街の価値を高めているのが特徴だ。今回から3回に分けて、受賞した施設を紹介する。

1回目は鉄道関連の国際デザインコンペティション「ブルネル賞（奨励賞）」を受賞した東急池上線池上駅（東京都大田区）。駅改良と駅ビル開発を行った案件で、プロジェクトを担当した建築設計本部第2設計室副室長の横山伸祐氏に話を聞いた。

歴史継承と公民施設融合が評価

池上駅改良・駅ビル開発 ブルネル賞（奨励賞）

寺院や地域の特色を施設デザインに

――プロジェクトの概要、経緯から。

横山 東急池上線池上駅は約100年前に池上本門寺への参詣客の輸送を目的に開業した歴史ある駅舎である。東急線最後の構内踏切の解消と駅舎の老朽化に加えて、線路が街を分断していたのを解消することを目的とした建て替え計画である。その解決策が橋上駅舎化であり、併せて駅ビルを建て、街に必要な機能を盛り込むこととなった。

――従前は駅には商業施設はありませんでした。

横山 売店程度しかなかったが、新しい駅ビルにはエリアの活性化を目指し、保育園や図書館、メディカルモール、食品スーパー、図書館、本の持ち込みが可能なカフェが入り、地域の交流の場ができた。特に図書館やスーパー、カフェは男女問わず多世代にわたり利用されている。街に愛される居場所をつくるというコンセプトが実現でき、設計者冥利に尽きる。

東急池上線池上駅

――特定の人だけではなく、池上駅に訪れる方、その街に住まう、関係する方々のためになっていることを実感している。

――エリアの特徴は。

横山 池上本門寺があり、「お会式」と呼ばれる年1回の盛大な法要が行われる門前町。駅ビルのデザインは和のテイストを随所に織り込み、歴史ある門前町のDNAを連続的に感じられるようにした。法要時の万燈を模した象徴的な列柱で、寺院とお会式を融合させるデザインとすることで、街に受け入れられる施設を目指した。

内部のエスカレーター脇にある共用部を、外が眺められるフリースペースとした。従前は平屋建てだったが、5階建てになったことで街を一望できるようになり、本門寺も見え、今まで見たことがない景色が楽しめるようになった。地域の方が上から街を見渡せるという新たな体験を生み出している。これも含めて生活利便施設として毎日多くの人で賑わう街の居間になっていることを実感している。

――駅舎も一新しました。

横山 駅舎はかつて木造だったので、そのテイストを復元するため、天然の木材を積極的に使用した。池上駅の平均乗降客数は、従前から駅の規模以上の1日約3万6000人と池上線沿線の中でも利用客が多い。都内でも下町情緒のある門前町を意識し、木質で温かみのあるデザインを目指した。駅舎は高い安全性が求められる。天然の木材を使うため、経年変化による脱落などの安全性を損なう事象や維持管理に対して、配慮した収まりとした。旧駅舎で使用されていた木の古材も一部使い、かつての記憶を継承できるようにした。池上線沿線の駅舎ではお馴染みの長いベンチがあり、これを取り外して駅構内に移設。壁の装飾にも使用した。

自由通路

――設計面で苦労した点は。

横山 駅舎機能だけではないため、多くの関係者が関わっており、その方々との調整が、計画時から工事中までも多く必要となったこと。その過程で起こる様々な困難を、事業者の担当と協力しながら一緒に進めることができた。

建築面でいえば、制限された敷地に対して線路が斜めに横断していることと線路下地中に構造物が横断できない条件による構造計画、それらを考慮しながら、お客様や施設関係者の動線と複数の用途を考慮したプランを成立させるための調整が難しかった。

――そのほかには。

横山 照明デザイナーの力を借り、施設内の温かみを感じられるよう間接照明を多用した。駅舎ではメンテナンス性に配慮した照明計画が求められる中、照明器具の交換を容易にできるよう収まりを工夫し、関係各所の了承を得られる計画を検討しながら進めた。

エスカレーター脇の共用部をフリースペースとした

――ブルネル賞（奨励賞）を受賞しました。

横山 国際的なブルネル賞は鉄道施設の設計に携わる者にとって憧れの賞。前回は2014年で、今回実に11年ぶりの開催となった。

――受賞にあたり、評価された点は。

横山 歴史を継承するデザインに加え、建物に街の南北をつなぐ動線が巧みに組み込まれていること、図書館と保育園といった公共性のある施設を誘致し、それらをうまく融合させた点が評価された。歴史ある東急グループとして初の受賞だったのもうれしい。

――最後に抱負を。

横山 当社は駅舎や駅に付随する施設を数多く手がけている。駅は毎日、多くの人が使う場所であり、街との関係が大変深い。それは沿線価値と密接に関係している。公共交通としての機能性だけではなく、地域に愛され、安心して利用していただける駅舎を目指し、責任をもって設計に取り組んでいく。

（聞き手・特別編集委員 松本顕介）